

# 仲間力

世田谷区立桜丘小学校  
令和6年9月19日(木)  
校長室だより No.8  
校長 東城 良尚

【「校長通信」より】

先日の校長通信では、物を大切に扱うことについて話しました。ご家庭でも何かの場面で活用していただければ幸いです。

プロ野球北海道日本ハムファイターズの新庄剛志監督が9日、自身のInstagramを更新し、現役最後まで7500円のグラブ1個だけを使い続けた理由を明かしました。新庄監督は「グラブは野球選手にとって、心臓みたいなもの、僕はこの7500円のグラブのお陰でギリギリのプレーでもボールがグラブに収まってくれたし、名プレーが生まれた」とつぶっていました。新庄監督のグローブの話は当時有名だったので、平成24年度の学級通信で道具を大切にすることをテーマで↓の二つを紹介しました。

新庄さんの魅力の1つは優雅で攻撃的な守備であるが、彼には大切なグラブがある。阪神入団1年目の1990年に、自分の給料で初めて購入したグラブがそれである。『タイガース63』の刺繍がついているそのグラブは、14年間もの長きに渡って新庄剛志と共にフル出場を果たして来た。今シーズンが終わるか終わらないかの頃、新庄さんは大切なそのグラブを大阪の革職人に託した。来季を見据えたオーバーホールである。継ぎはぎだらけのそのグラブは、ここ数年はゲーム時のみの使用に限っていたにも関わらず損傷が目立つようになり、何度目かの大規模な手術に踏み切らざるを得なかった。試合数、温度差、興行条件。しわだらけのご老体にこの3年間は相当過酷だったことだろう。結果が出ない時、イライラが募った時、自分の分身とも言えるバットやグラブを投げつけるチームメイトは実に多かった。新品のバットで凡打した選手が、その腹いせにバットをゴミ箱に捨てるなんてことはけっこう頻繁にあった。情熱と工夫次第では14年間もの長きに渡って第一線で使い続ける事だって出来るのだ。極端な話、グラブ1つで日米両国でバリバリと仕事をこなした男がいるのだから。

2003年9月30日 小島克典(NYメッツ通訳)

阪神1年目の初めての給料で買った。17年間いっしょに過ごしてきたグラブが『もうプレーできない。もう限界』と言っている。常に携帯し、遠征先でもテレビの上に置いて湿らないようにとか気遣いしてきた。」

(新庄選手 引退記者会見より)

新庄監督は「今はグラブがカッコいいから毎年変える選手の気持ちもわかるけど、プロならプレーで見せて欲しいなあ 道具を大切に作る人間は人も大切にしているし、人からも大切にされるばい」と結んでいます。イチロー氏も現役の際、地面にバッドを置かなかったのは有名な話です。スポーツに限らず、道具を大切にしないようでは成功しませんね。



※教員向けの「校長通信」は、いわゆる業務連絡もあり、毎号紹介できる内容ではありませんが、保護者の皆さまにも知っていただきたいことは適宜ご紹介してまいります。